



地域の風景を楽しみながら歩く散策路「フットパス」の普及を目指し、初の全国組織「日本フットパス協会」が発足しました。

2月7日、東京都町田市で日本フットパス協会の設立総会、記念式典・シンポジウムが開催され、佐藤副町長をはじめ黒松内町農山村資源活用地域協議会(町フットパスボランティア)会長 新川幸夫氏ほか会員4名と事務局2名が出席しました。

フットパスで地域振興を

# 日本フットパス協会発足



▲左から原田川西町長、佐藤副町長、石阪町田市長、石原名誉会長(元内閣官房副長官)、内谷長井市長、依田甲州市副市長

協会に加入したのは、本町、町田市、山形県長井市と川西町、山梨県甲州市の3市2町とNP Oなど6団体、1個人。  
最初に「フットパスの考え方や活動の全国への普及と各地の活動支援、連携による活力に満ちた地域社会の実現」を目的とする同協会の設立趣意を出席者全員で確認し、承認。  
続いて、役員を選出。会長に石阪丈一町田市長、副会長に若見雅明黒松内町長のほか長井・甲州両市長を選任。  
今後、各地でイベントを開催し、フットパスの知名度アップに取り組むなど活動方針を決定しました。

記念式典で会長に就任した石阪町田市長は、設立宣言と共に

「フットパス活動を支援、連携して、地域振興に結び付けたい」と、決意を述べ、また副会長の若見町長の代理の佐藤副町長は、「協会設立によって日本のフットパス網がどんどん広がることの一大助になりたい」と、抱負を交えて挨拶。  
式典に続くシンポジウムでは、イギリスから招聘したフットパスの専門家が講演。  
その後のパネルディスカッションでは、エコ・ネットワークの小川巖代表など8名が各地の活動を紹介。  
新川会長は、鉄道の枕木を再利用した案内板整備などの取り組みを報告しました。



▲新川会長がパネルディスカッションで本町の取組みを発表



▲8日、設立記念フットパスウォークの様子(町田市小野路地域) ▲フットパスウォークでの地元農家のおもてなし料理

### ◆景観を育む5つの基本方針

ふるさと黒松内の自然を 守り・育み・活用します。

先人たちが守ってきた黒松内固有の自然。歌才ブナ林をはじめとする広葉樹と朱太川のせせらぎは、四季折々の風景を私たちに与えてくれます。

この自然を守り、育み、自然体験や環境学習などへ活用します。

ふるさと黒松内の農業を 守り・育て・活用します。

農業の生業なまわいがもたらす牧歌的風景は、農産物を安定的に生産する場としての役割に加え、動物や植物が成長する喜びの場としても機能しています。この農業を守り、育て、地域ブランドの確立や食育などへ活用します。

人々の生活が溶け込みます。

地域の人々が、優れた景観の中で暮らしていることの価値を理解し、自分に何ができるかを考える必要があります。

人々の生活に欠かせない衣・食・住にこだわりを持ち、落着きがあり統一感のある景観を創造します。

スロウな視点から景観を 育んでいきます。

歩くスピードでは普段見えないものが見えてきます。

見たいものしかない景観。スロウな視点でも満足できる景観を、じっくり時間を掛け育んでいきます。

妥協しない景観づくりを 取組んでいきます。

見たいものしかない黒松内町をつくり上げるため、黒松内町を愛する人々が互いに協力し合い、あらゆる手を借り、あらゆる手を尽くし、妥協しない景観づくりに取組んでいきます。



現在の黒松内町街地の風景【平成17年】

